



BUSINESS REPORT

第92期 報告書

2014年4月1日▶2015年3月31日



いつも となりに

おいしいキヨクヨー



代表取締役社長 多田 久樹

企業理念

人間尊重を経営の基本に、健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに成長することを目指します。

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第92期(2015年3月期)報告書をお届けいたします。

この一年、中期経営計画「パワーアップ・キョクヨー2015」の最終年度として、家庭用冷凍食品の販路拡大、クロマグロ完全養殖事業の進展、冷蔵倉庫事業の城南島事業所開設のほか、海外においては販売子会社2社を新たに設立するなど、国内外市場拡大を積極的に行いました。更に課題であった冷蔵運搬船事業は船隊編成のスリム化、グループ組織再編により効率化を進め、収益の安定化を図りました。

そして4月からは新中期経営計画「バリューアップ・キョクヨー2018」をスタートさせました。「魚に強い総合食品会社として、収益基盤の安定と変化への対応力を高め、新たな価値を創造する企業を目指す」という基本方針のもと、「グローバル戦略」「シナジー戦略」を更に進化させるとともに、お客様目線を意識した付加価値商品を提供するため、新たに「差別化戦略」を加え、3つの戦略として取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月

「パワーアップ・キョクヨー2015」から「バリューアップ・キョクヨー2018」に向けて

当期(2015年3月期)の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府や日銀による財政・金融政策を背景に円安・株高傾向が継続する中、企業収益や設備投資に改善が見られるなど緩やかな回復基調で推移しております。一方で消費税増税や物価上昇による個人消費への影響や新興国経済の動向など、先行き不透明なところもあり、楽観できる状況にはありません。

水産・食品業界におきましては、消費者ニーズの多様化に伴い、多少値段が高くとも高品質な商品の売上が伸びる

など、従来の低価格志向とは異なる動きも出ておりますが、少子高齢化による国内マーケット環境の変化や、円安の定着による輸入水産物の買付コスト増などもあり、厳しい状況を脱し切れておりません。

このような状況のもと当社グループでは、中期経営計画『パワーアップ・キョクヨー2015』の最終年度として、「キョクヨーグループの優位性を強化、拡充し、安心・安全で競争力のある商品の提供により、グループ企業価値の最大化を

主な連結財務指標

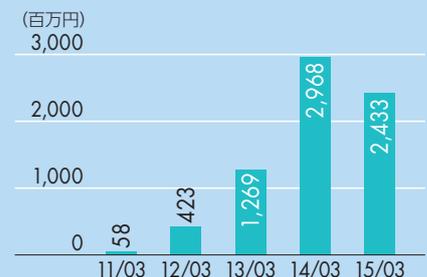
売上高



経常利益/売上高経常利益率



当期純利益



実現する」ことを基本目標に据えて取り組んでまいりました。

その結果、当社グループの売上高は2,183億50百万円(前期比7.9%増)、営業利益は24億60百万円(前期比15.6%減)、経常利益は21億7百万円(前期比29.4%減)、当期純利益は24億33百万円(前期比18.0%減)となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

水産商事セグメントでは、赤魚、ホッケなど北洋魚を中心とした凍魚加工品や、定塩サケ製品、伸ばしエビといった付加価値製品の販売が順調に推移し、売上は前期を上回りました。一方で、円安の影響により厳しい買付状況が続く中、加工コストの上昇による利益率の低下や昨年末からのサケの市況下落などにより、利益は前期を下回りました。

冷凍食品セグメントでは、『だんごり上手』シリーズを中心とした骨なし切身、焼き魚・煮魚などの加熱用商品を医療食及び事業所給食向けに、寿司種を中心とした生食用商品を大手回転寿司チェーン向けに拡販いたしました。また白身魚のフライやカニ風味かまぼこなどの惣菜品は、量販店やコンビニ向けに拡販いたしました。一方で海外生産拠点の分散化を進め、ベトナムなど中国以外での生産量が伸長しました。市販ブランドである『シーマルシェ』商品を中心とした家庭用冷凍食品は、水産会社としての優位性を活かした商品提案を進め、徐々に導入店舗数が増加してまいりました。その結果、この部門は売上・利益ともに前期を上回りました。

常温食品セグメントでは、ツナやサバなどの水産缶詰や『シーマルシェ』商品の拡販に努めるとともに、価格改定や商品の集約、規格変更等のコストアップ対策に取り組みました。また、海産珍味類は大手コンビニのPB商品を中心に引き続き順調に推移しました。その結果、この部門は売上・利益ともに前期を上回りました。

物流サービスセグメントにおける冷蔵倉庫事業では、城南島事業所の開設など営業力強化に努め、冷蔵運搬船事業は、今期3隻体制で操業しているうちの2隻をバナナ輸送の年間契約航路に配船し、効率の良い運航に努めました。その結果、この部門は売上・利益ともに前期を上回りました。

鯉・鮪セグメントにおける加工及び販売事業は、国内外からの原料調達ルートを活用し、ネギトロなどの加工品を大手量販店や回転寿司チェーン向けに拡販いたしました。養殖事業は、『本鮪の極』ブランドの市場での評価が定着し、販売が順調に進みました。天然種苗の確保は依然として厳しい状況ではありますが、昨年9月のクロマグロ完全養殖魚の沖出し成功を受け、2年後の完全養殖クロマグロの出荷を目指してまいります。海外まき網事業は、漁獲量は前期を上回ったものの、魚価の回復が鈍いことに加え、入漁料の高騰やドック費用の増加などもあり、収支が悪化しました。その結果、この部門の売上・利益ともに前期を下回りました。

次期(2016年3月期)の計画目標

次期におけるわが国経済は、景気回復への期待は高まるものの、円安の影響による物価上昇の懸念などもあり、先行きは依然として不透明な状況にあります。水産・食品業界におきましても、原材料価格の上昇によるコスト増や企業間競争の激化など、引き続き厳しい環境が想定されます。

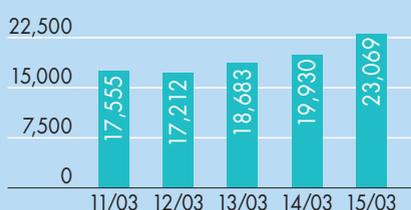
このような状況のもと、当社グループは新中期経営計画『バリューアップ・キョクヨー2018』をスタートさせました。『グローバル戦略』、『シナジー戦略』、『差別化戦略』を柱に

「魚に強い総合食品会社として、収益基盤の安定化と変化への対応力を高め、新たな価値を創造する企業を目指す」ことを基本方針として、目標達成に向けて取り組んでまいります。また今年12月に竣工予定の塩釜新工場については、早期の本格稼働を目指してまいります。

新中期経営計画の初年度は、売上高2,290億円、営業利益36億円、経常利益35億円、当期純利益22億円を見込んでおります。

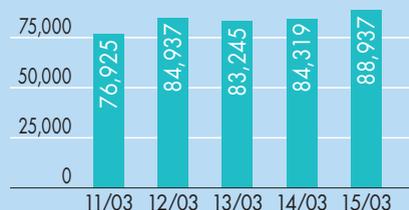
純資産

(百万円)
30,000



総資産

(百万円)
100,000



自己資本比率/自己資本利益率(ROE)/ 総資産経常利益率(ROA)



2014.4-2015.3

TOPICS

4月 家庭用冷凍食品部を新設

2014年春の新商品よりブランド「シーマルシェ」にて、家庭用冷凍食品の販売を開始しており、それら商品の市場展開を加速するため、4月に家庭用冷凍食品部を新設いたしました。

**9月 完全養殖クロマグロの沖出しに成功**

人工孵化による親魚からの種苗生産を行う極洋日配マリン(株)は、その仔魚を海上生簀へ移す沖出しに成功いたしました。これを成魚へと養成して、2017年の完全養殖クロマグロの初出荷を目指しています。

**4月 Kyokuyo(Thailand) Co.,Ltd.を設立**

経済発展が著しいASEAN市場に向けて、需要が拡大している日本食材を主体とした販売を行うとともに、2015年に発足が見込まれるASEAN経済共同体(AEC)による域内貿易の拠点として、タイ王国のバンコクに現地法人を設立いたしました。

8月 K&H Food Impex GmbHを設立

当社グループのサプライソースを活用し、その相乗効果によって欧州での販売力と競争力を高め、欧州市場における販路を拡大させるためオーストリア共和国のウィーンに合弁会社を設立いたしました。

8月 キョクヨー秋津冷蔵(株)城南島事業所を開設

京浜地区の庫腹を拡大して物流部門の事業拡大とサービスの拡充を図るため、東京都大田区城南島に新たな事業所を開設いたしました。キョクヨー秋津冷蔵(株)がその運営に当たります。

CSR 環境保全・社会貢献活動

サステナブル・シーフード・ウィークへの参画

2014年6月、持続可能な漁業の普及に向け世界的に活動しているMSC(海洋管理協議会)日本と、WWF(世界自然保護基金)ジャパンとが、水産資源の持続的利用の重要性についての認知度向上を目的として開催したキャンペーン「サステナブル・シーフード・ウィーク」に、当社も賛同企業として協力しました。

キャンペーンに先立って開催されたプレス発表会ではMSC認証製品とASC(水産養殖管理協議会)認証製品が試食として振舞われ、試食品5品のうち当社からは、ロシア産定塩紅鮭とかに風味かまぼこの2品を提供しました。



プレス発表会で提供された試食品



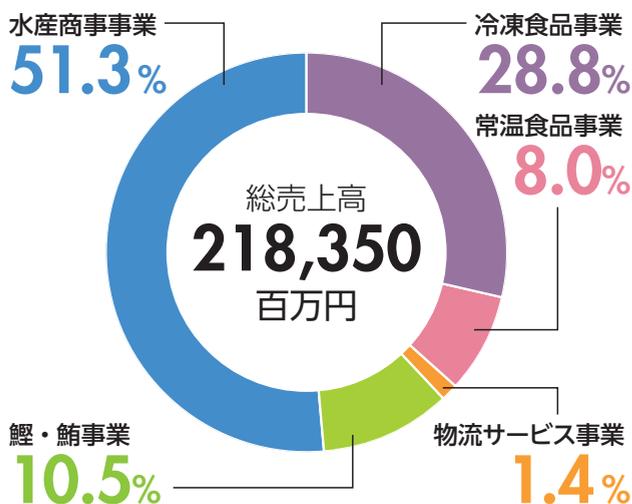
※MSC認証とは、持続可能で適切に管理された漁業やその漁業で獲られた水産物を扱う流通・加工業者を認証する制度です。

社会・環境報告書2014発刊

2014年9月に「極洋グループ 社会・環境報告書2014」とそのダイジェスト版を発刊しました。食品会社に共通するテーマである、安心・安全や食文化への貢献、低炭素社会、資源循環型社会、生物多様性の5つの取り組みについて、2013年度を中心とした活動・成果をご紹介します。



セグメント別売上高構成比



* 水産商事事業 *

- 売上高 **111,795** 百万円
- 営業利益 **1,888** 百万円

国内外の支社、営業所、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、世界の海から質の高い水産物を安定的に調達するとともに、切身製品やカニ、エビの剥き身製品などを提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚介類の輸出や三国間貿易を積極的に行い、水産物の有効利用と資源循環型社会の実現に努めると同時に、魚食のグローバル化へも対応しています。



かにセイロ蒸し(調理例)

* 冷凍食品事業 *

- 売上高 **62,744** 百万円
- 営業利益 **409** 百万円

寿司種を中心とした生食用商品を回転寿司チェーンなどへ販売しているほか、骨なし切身加工品「だんどり上手」シリーズや煮魚、漬け魚などの加熱用商品を高齢者施設や宅配向けに販売しています。

また、水産フライ類やカニ風味かまぼこをはじめ、畜肉製品や冷凍野菜などを外食ルートや量販店惣菜売場向けに販売しています。2014年春には、「シーマルシェ」ブランドから家庭用冷凍食品の発売を開始しました。

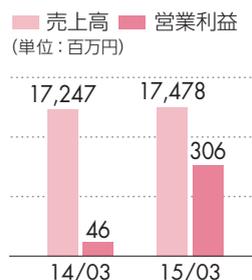


だんどり上手「国産さば塩焼き」

* 常温食品事業 *

- 売上高 **17,478** 百万円
- 営業利益 **306** 百万円

1949年の缶詰製造から始まった長い歴史を持つ事業です。現在ではカツオ、サケ、カニなどの魚介缶詰をはじめ、「シーマルシェ」ブランドの商品などもラインアップし、製品力の強化を図っています。また、海産珍味類、グルコサミンやDHAなどの健康食品も販売しています。



(左)ツナリッチ
かつおオイル漬フレークあらほぐし
(右)海から生まれたグルコサミン

* 物流サービス事業 *

- 売上高 **3,148** 百万円
- 営業利益 **148** 百万円

冷蔵倉庫事業と冷蔵運搬船事業から成り、冷蔵倉庫事業は東京の大井及び城南島、大阪、福岡の4事業所体制で行っております。冷蔵運搬船事業は主にバナナや野菜類の輸送を行っています。



冷蔵運搬船

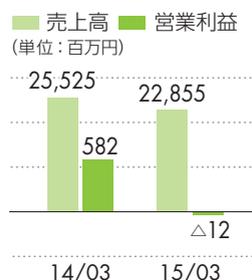


キョクヨー秋津冷蔵(株)・城南島事業所

* 鰹・鮪事業 *

- 売上高 **22,855** 百万円
- 営業利益 **△12** 百万円

鰹・鮪の漁撈・養殖から買付・加工・販売までを一貫して手掛けています。カツオについては、当社グループ所有のまき網船「わかば丸」による独自の調達力があります。マグロについては、限りある水産資源の保護と安定的供給のために、四国で養殖事業を展開し、オリジナルブランド「本鮪の極」はお客様から高い評価をいただいています。また、天然稚魚に頼らない完全養殖事業にも取り組んでいます。



養殖クママグロの成魚水揚げ

会社概要 2015年3月31日現在

社名 株式会社 極洋
英文社名 KYOKUYO CO., LTD.
本社所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号
設立 1937年9月3日
資本金 56億6千4百万円
主要な事業内容 水産物の輸出入・国内買付販売、加工食品及び冷凍食品の製造販売
従業員数 2,169名(連結)
 578名(個別)
連結対象会社数 24社
役員
 代表取締役社長 多田 久樹 取締役 矢澤 久和
 代表取締役専務 今井 賢司 取締役 天利 均
 専務取締役 村上 吉男 取締役 酒井 健
 常務取締役 上居 隆 常勤監査役 中山 昌生
 常務取締役 雲津 雅行 常勤監査役 芥川 淳
 取締役 保坂 正美 監査役 上島 幹雄
 取締役 松行 健一 監査 村谷 育雄
 取締役 井上 誠

株主優待のご案内

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

株主優待の内容

- **対象株主**
 毎年基準日(3月31日)現在で当社株式1単元(1,000株)以上所有の株主様
- **優待の内容** ● **贈呈時期**
 5,000円相当の当社製品贈呈 毎年7月予定

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月
定時株主総会基準日 3月31日
期末配当金基準日 3月31日
公告方法 日本経済新聞
株主名簿管理人
および特別口座の 三菱UFJ信託銀行株式会社
口座管理機関
同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話：0120-232-711(フリーダイヤル)

(ご注意)

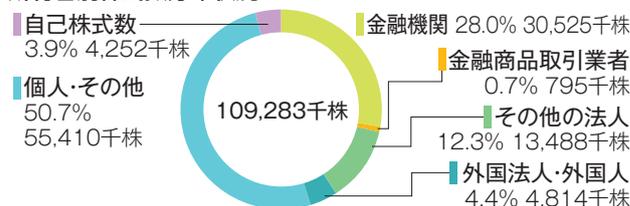
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式の概況 2015年3月31日現在

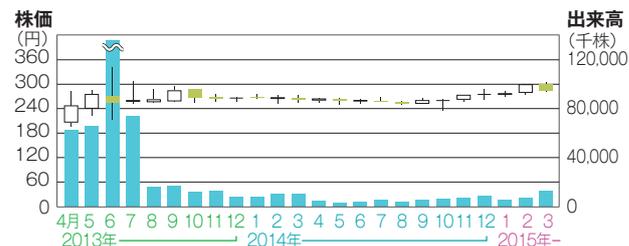
発行可能株式総数 437,000,000株
発行済株式の総数 109,282,837株
株主数 32,190名
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	7,043	6.44
株式会社りそな銀行	5,234	4.78
農林中央金庫	5,234	4.78
三井住友海上火災保険株式会社	4,501	4.11
東洋製罐グループホールディングス株式会社	3,150	2.88
東京海上日動火災保険株式会社	2,245	2.05
カップ・クリエイトホールディングス株式会社	2,100	1.92
極洋秋津会	1,661	1.52
チェース マンハッタン バンク ジーティーエス クライアーツ アカウント エスクロウ	1,500	1.37
中央魚類株式会社	1,399	1.28

所有者別株式数分布状況



株価及び出来高の推移



WEBサイトリニューアルのご案内

当社のコーポレートサイトを全面的にリニューアルし、平成27年6月下旬に公開いたします。キョクヨーのこだわりや企業情報、商品紹介、IR関連など最新の情報を掲載いたします。また、皆様からのご意見やご質問など当社に関するお問い合わせをお受けする入力フォームも用意いたしますので、是非ご活用ください。

<http://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー 検索